

大森地区優秀作文



税が広げる未来の可能性

大田区立馬込中学校 二年 福島 景子

義務教育を終えたら私たちはどうなるのだろうか。中学三年になり、受験という存在が目の前に現れた。ようやく自分の中で受験が現実味を帯びてきたのだ。高校は義務教育ではない。だからこそ仕組みや制度が異なっていて全く分からない。そこでこの夏を使ってどんな制度があるのか調べてみることにした。

数多の情報の中で特に驚いた制度がある。就学支援金と授業料軽減助成金という制度だ。高校生に適用され、授業料の負担を減らせる。国と都の税で支えられている制度だ。東京都私学財団によると、国から一億八千八百円、都から私立の人に追加で最大三十七万二千円が助成金として支給される。以前は所得制限があったが昨年からは都民全員に拡大された。

これで疑問に思ったことがある。これらの制度はどのように助けをくれるのだろうか。

もし支援なしで私立高校に入学した場合、親の今後の費用が減ったり、自分が借金を背負ったりする可能性が高まる。一方で、これらの制度があれば確実に費用を抑えることができ、借金を背負う可能性が低くなる。つまりこれらの制度は親も子も助けているのだ。

一見、この恩恵を受けるのは子どもだけのように見える。しかしこれは大人に

も大いに好影響を与える。高校や大学は様々な費用が新たにかかるため奨学金を利用する人が多い。ただ、奨学金があると結婚の障害になったり、こどもを持つのを諦めざるを得なくなったりする場面がある。実際、親もこの奨学金に二年間苦しめられていた。毎月数万円ほど返していくのだが、それだけ分割してもやはり負担は大きかった。だが、授業料が軽減されれば、奨学金や子育ての金銭的負担が軽くなり、その結果将来の年金を支える人が増える。つまりこれらの制度は今の学生を支えるだけでなく、未来のシニア世代を支える架け橋でもあったのだ。教育や少子化対策への国と都の強い思いを支援制度で感じることができた。その他にも〇一八サポートや保育料等の無償化など子育て支援制度が多く導入されている。税金は今の私たちも、未来の私たちも助けてくれる「頼れるまちのヒーロー」なのだ。

今、日本では税に対して否定的な意見が多いように見える。だが本当に税金は悪者なのだろうか。私は絶対にそのようには思えない。救急車の利用も、災害時の復旧作業にも、もちろん私たちの学校生活にも、全て税金が使われている。みんなも国民を守っている税金にマイナスなイメージがついてしまつのは、きつと何も知らずに税金を「支払っている」からだと思う。しっかりと用途を理解して、税金への知識を深めた上で「納める」ことができる、そんな人間に私はなりたい。

また、税金という素晴らしい制度が日本の安心で安全な未来を保ち続けられるよう、国民全員できちんとして納めていくべきだと思います。そして、より多くの人が幸せになれる世界を税金と共に創っていききたい。